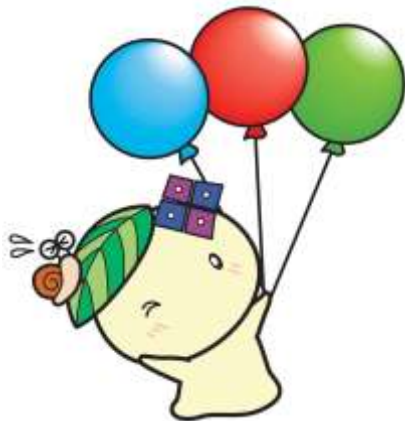


生野区西部地域学校再編整備計画・説明会
(平成29年8月2日・8月4日実施 田島中学校区)

これからの学校の話しよう

～2030年を生き抜く力と「まち」を育てる～



生野区長 山口 照美

1. はじめに～小規模校の校長経験から～

2. 生野区のエ育課題

3. これからの「生野のエ育」

4. 田島中学校区のエ育環境整備案

5. 今後の進め方

6. まとめ～「未来志向」のまちづくり～



1. はじめに ～小規模校の校長経験から～

○民間人校長～教育委員会～公募区長へ

公教育の課題を解決すれば教育格差は解消できる



「行政や地域の力を借りないと、学校はパンクする！」

○大阪市立敷津小学校（浪速区）

公教育の課題が凝縮した学校

○小規模校のいいところ。

一人ひとりに目が届く

出番や持ち場が多い

家族的な仲の良さ

教職員の同僚性が高い

○小規模校の難しいところ。

人間関係が固定化する

行事等の運営が大変

若手教員の育成に課題

教職員の業務数が多い

○「学校再編整備計画」への思い。

学校再編は
国の方針であり、
大阪市の方針でも

小規模のまま
学校を維持したら？

地域の歴史も思い
も大事にしたい。

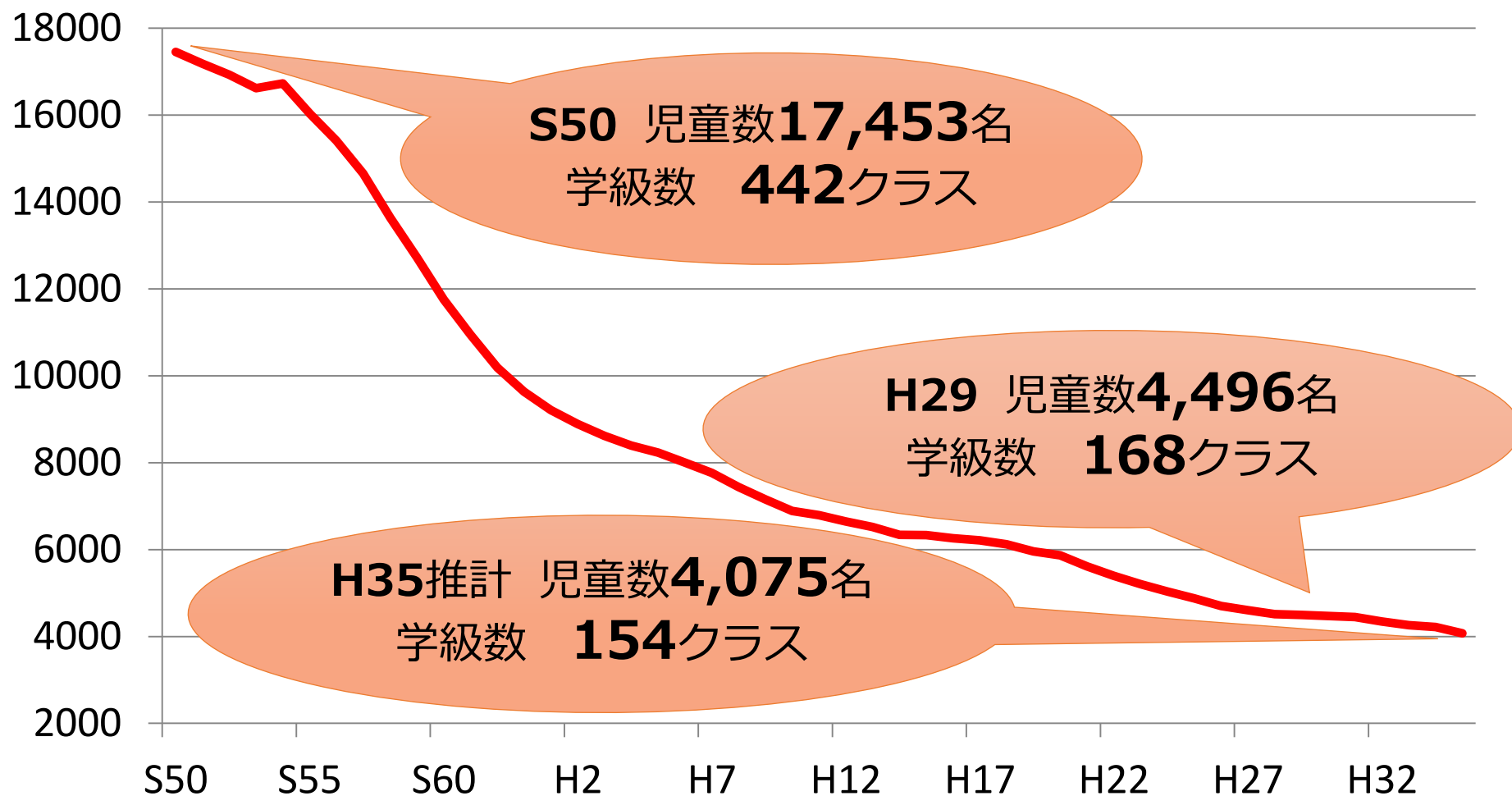
「今のまま」で本当にいいのだろうか？

2. 生野区の教育課題

【課題 1】 減る児童数と学級数～生野区全体～

○H29.5.1現在(暫定値)。H30年以降は推計値。

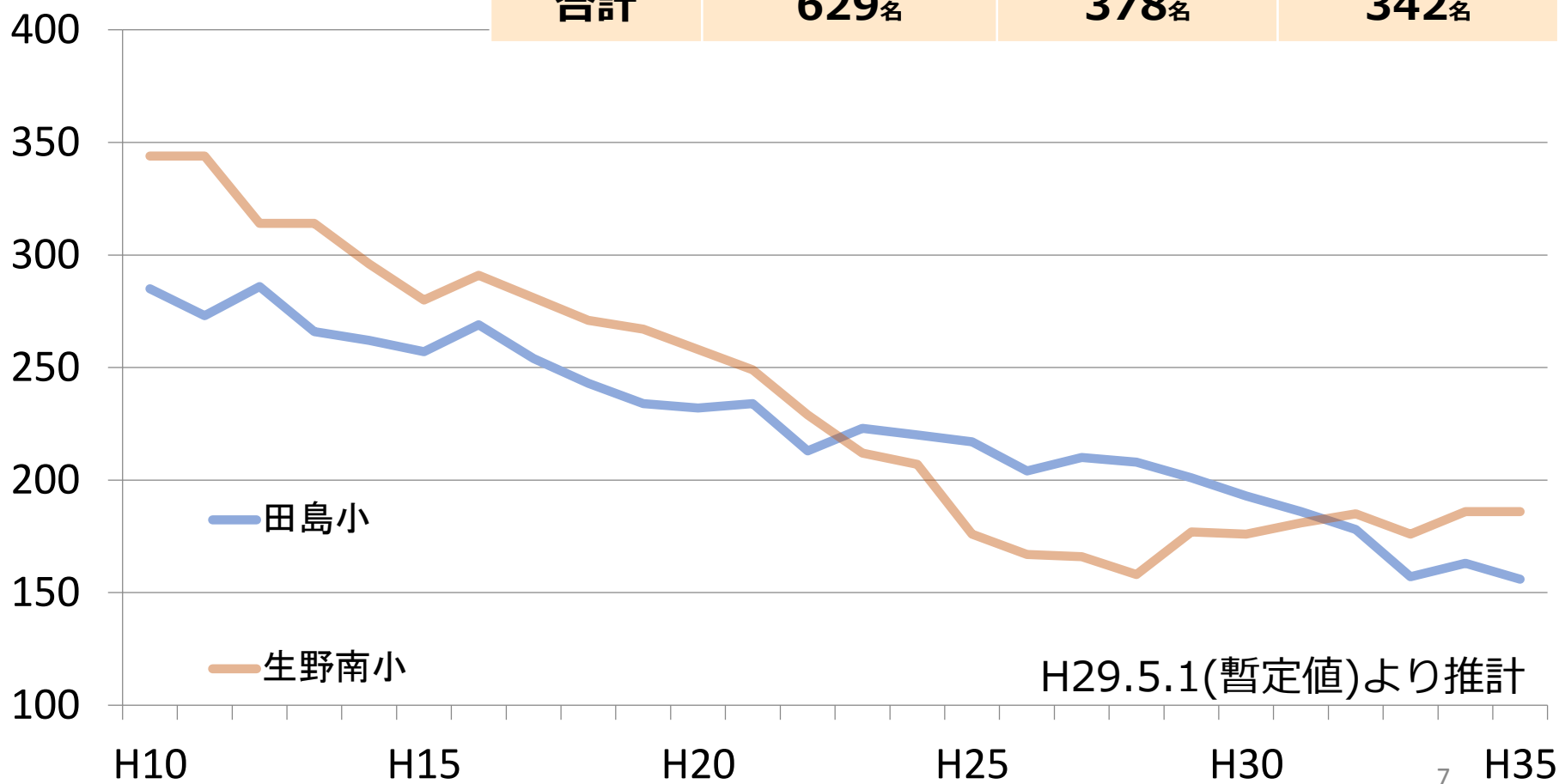
○H29は**4,496**名、**168**クラス → S50とくらべ、児童数 **約74%減**

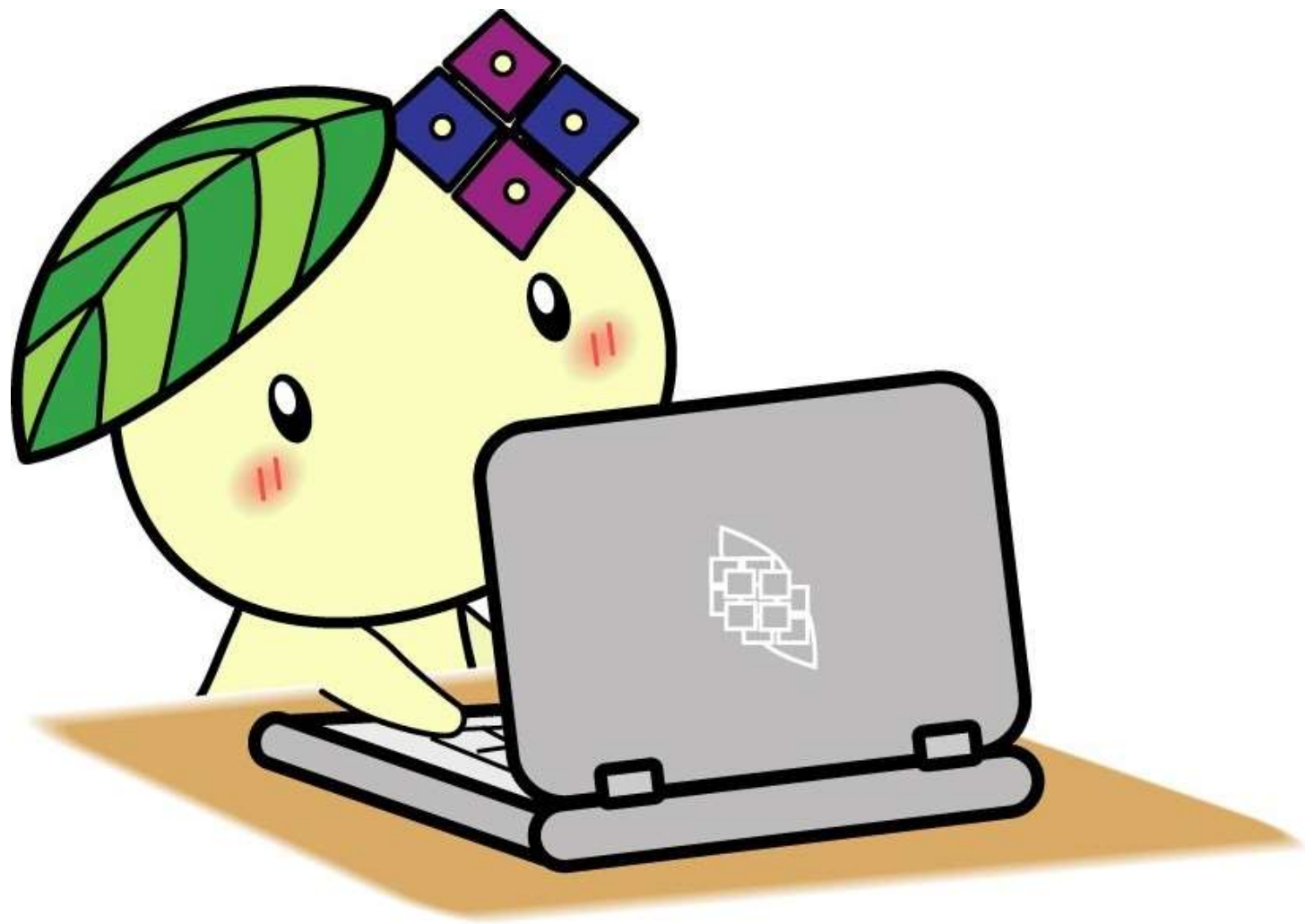


減る児童数と学級数～田島中学校区～

○H26年度以降でみると、
1歳～小2で転出傾向あり。

	H10	H29	H35(推計)
田島小	285名(12学級)	201名(7学級)	156名(6学級)
生野南小	344名(12学級)	177名(6学級)	186名(8学級)
合計	629名	378名	342名





【課題2】 教員の若年化・多忙化

大量退職・大量採用の時代となり、
経験 **10年以内**の教員が**半数以上**

小学校の単学級の課題

⇒若手が1人で授業や校外学習等の準備をするしんどさ



小中学校の課題

⇒給食・掃除も指導のうち、子どもの貧困などの**課題対応もあり多忙**

⇒学校行事や部活動など、授業以外の教育活動も多く**教員の役割が多い**

複数学級で教員が学び合い、業務軽減を図り、授業の質を向上させる



【課題 3】 課外学習時間の少なさ

学校がある日に授業以外で
1日どれくらい勉強するか

「まったくしない」

生野区の小5 **7.1%**
(小6 全国平均 **3%**)

生野区の中2 **14.8%**
(中3 同**5.5%**)



基礎学力が定着しにくい



相関

自尊感情・意欲の低下

進路選択の幅が狭くなる

九九が定着していない⇒計算に時間がかかったり、できなかったりする⇒

苦手意識



校長室で3年生以上に「九九道場」を実施

【課題4】求められる力や授業の変化

こどもたちが生きる未来とは？

A.I（人工知能）やビッグデータの普及

「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に**今は存在していない職業に就く**だろう」

（キャシー・デビッドソン氏 文科省資料より引用）

「**正解主義**」ではない
思考力・判断力を育てる

次期学習指導要領

小学校5・6年英語の教科化
プログラミング教育必修化

大学入試改革

数・国で記述式、英語4技能、C B Tの導入



「今後10年～20年程度で、**半数近くの仕事が自動化される**可能性が高い」
(マイケル・オズボーン氏)

文部科学省資料より引用

「将来においても人間が担う」 仕事のジャンル

- 創造性の必要な業務

「発想力」 「創造力」

- 協調性の必要な業務

「共感力」 「コミュニケーション能力」

- 非定型な業務

例) 研究 コンサルティング 営業 など

課題解決のために

「ひとりも取りこぼさない」支援と「未来を生き抜く力」の育成

不登校・虐待・こどもの貧困対策・
自立支援に積極的に取り組む

基礎学力の上に、課題発見力・
課題解決力を育てる

区の教育課題を解決しながら「次世代の学校づくり」をめざす

【課題 1】

減る児童数と学級
数をどうする？

【課題 2】

教員の若年化、多
忙化をどうする？



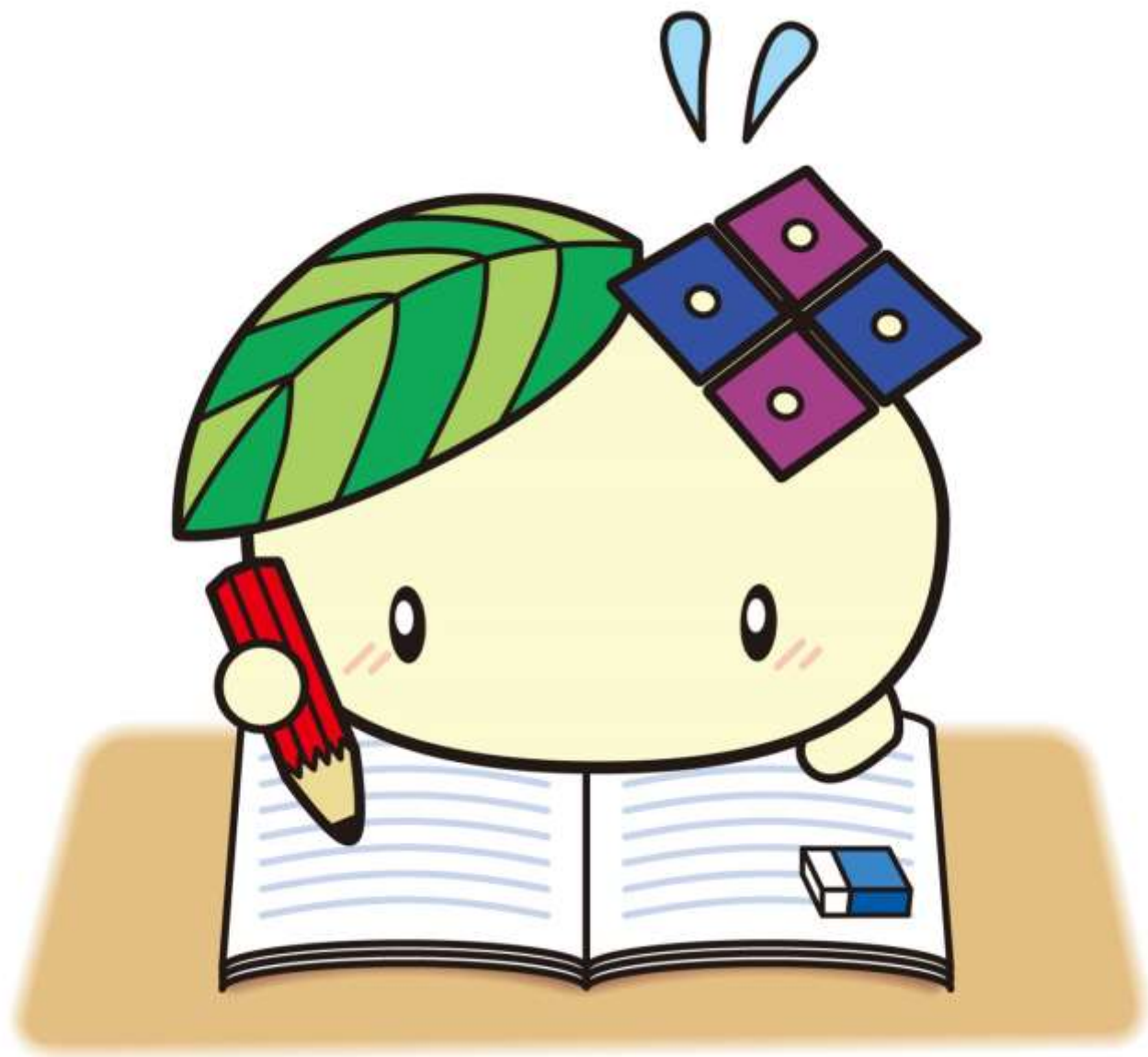
【課題 3】

課外学習時間の少
なさをどうする？

【課題 4】

新しい教育にどう
対応する？

「生野の教育」を示し、教育環境整備と学校支援を行う



3. これからの「生野の教育」

「生野の子どもたち」に願うこと

変化の激しい時代の中でも

「居場所」と「持ち場」のある人生を送ってほしい

① 社会人として「持ち場」を見つける

基礎学力を身につけ、適性を伸ばし、進路保障をする

② 多様な人とつながる

多文化共生時代に向けたコミュニケーション能力を育成する

③ 「学び続ける力と意欲」で課題を乗り越える

時代の変化に対応できる自ら学ぶ力と、「やればできる」という自信を養い、予測できない未来を生き抜く力を育てる

「生野の教育」 3つのキーワード

今の課題解決の上に「次世代の学校」の3本柱を立てる

現状の課題解決



安心・安全な学校づくり

不登校・虐待・こどもの貧困などの課題に学校と行政、地域が連携する仕組みを構築



教員の指導力向上

教員が学びあうための環境整備・学校支援・研修・研究指定など

「生野の教育」 3つのキーワード

基礎学力を身につけ、
学び続けるための

自立（自律）学習

課外学習支援

学校・教員支援

課題を解決し、新たな
教育を実現するための

チーム学校

学ぶ意欲
目標を持つ



地域・外部講師
による支援

学んだことを
活用する

自分を知り、視野を
広げ目標を持つための
キャリア教育

小中一貫で実施する
とより効果が高い

「生野の教育」のキーワード① 自立学習

自ら課題を設定し、学ぶ力・やりぬく力を育てる

生野のこどもたちに望むこと

1. 基礎学力を身につけ、適性を伸ばし、社会人として「持ち場」を見つけること。
2. 「世界につながる生野区」で国際感覚を身につけ、多様な人と協働できること。
3. 社会や人生が変化しても「課題を発見し、解決する」力と意欲を持つこと。

公教育としてまず保障すべきなのは、1の「社会的自立」の達成

①「自立（自律）学習」（自ら目標を立てて学習する）ができるこどもを育てる

家庭への啓発

「生野区版・家庭学習の手引き」等

小中一貫した自立学習指導

中学校区で連携した学び直しや検定の導入などを検討

課外の自立学習支援

学びサポーター、自習室、バウチャー活用等

②「主体的・協働的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）を取り入れる
小中連携した研究や指導法などの研修を市の施策を活用して実施

こどもが自主的に学習できる環境や支援を整備する

「生野の教育」のキーワード② キャリア教育

人生100年時代の「キャリア教育」を生野から発信

「2007年生まれの日本のこどもは、半数が107歳まで生きる」
「学習～労働～65歳で引退という従来の人生設計は崩れ、**80歳まで学び続け、働き続ける『マルチライフステージ』の時代**となる」

(『ライフ・シフト～100年時代の人生戦略』リンダ・グラットン)



次期学習指導要領も「キャリア教育」を重視

生野のキャリア教育

自分を知り、目標を持つ

「キャリアパスポート（仮称）」
の作成や保護者向けの講座など

「働く」意義やルールを学ぶ

労働者の権利や職業の社会的意義
についてさまざまな視点から学ぶ

世界と未来に視野を広げる

最新技術や社会課題、新しい職業
に触れる出前授業や体験講座

地域を知り、貢献する

生野区の歴史や産業を学び、地域の
一員として防災や環境整備に関わる

学校が取り入れやすいキャリア教育の授業やICT活用の支援

「生野の教育」のキーワード③ チーム学校

教育活動をサポートする外部連携を充実させる

「こどもを伸ばす学校」の根幹は「いい授業」

教師の時間を授業とこどもに向ける支援を行う

キャリア教育支援



登校見守り



学校



部活動支援



SSW・SC
などの相談



課外学習・
日本語指導



行政・地域・事業者・各種団体・異校種の連携で次世代の「チーム学校」を実現する

学校ニーズに応じた外部人材・専門人材の派遣を支援

(仮称) 田島中学校・D小学校の教育活動イメージ

自立（自律）学習

小中一貫した家庭学習指導

市や区の施策を活用した
自立学習・個別学習支援

主体的・協働的で深い学び
(アクティブ・ラーニング) の研究と導入

情報活用能力の向上をめざ
した図書室やICT活用

集団の中で学び合う

×

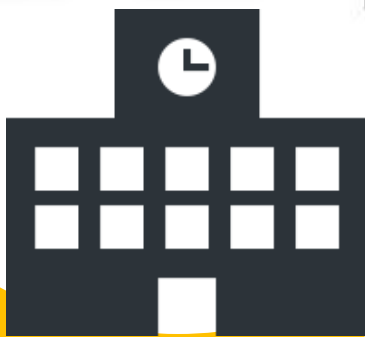
個に応じた支援

両輪で子どもを伸ばす

田島中学校



小中学校教員の
連携・協働



D小学校

生野のキャリア教育

小中一貫したプログラム
(キャリアパスポートの導入)

区や市教委との連携による
体験授業や出前講座の充実

地域産業等の特色を
活かした地域と連携した
体験活動の充実

生野版・チーム学校

区や市の施策を活用した専門
人材・外部人材の活用

チームを機能させる支援



4. 田島中学校区の 教育環境整備案

田島中学校区の新たな学校配置案

区からの提案



○ 新たな小学校の施設として活用

◇ 新たな中学校の施設として活用

田島中

田島中学校

田島小

生野南小

(仮称) D小学校
もと田島小学校

田島中学校区の新たな学校配置案

地域等からのご提案

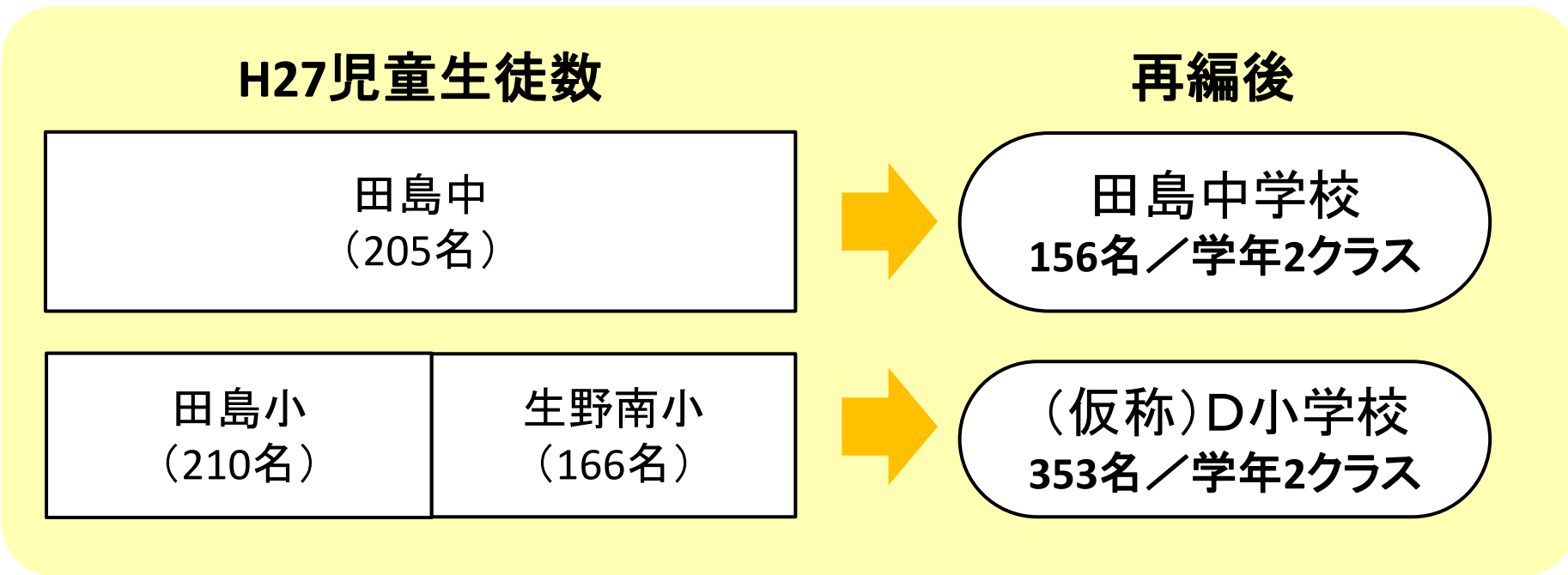


- 新たな小学校の施設として活用
- ◇ 新たな中学校の施設として活用
- △ 新たな中学校の第2運動場として活用

学校再編案の検討シミュレーション①児童・生徒数

I 田島中学校区

再編後の児童生徒数



現在 (H29児童生徒数)

田島中 (182名)	
田島小 (201名)	生野南小 (177名)

学校再編案の検討シミュレーション②設置場所

区からの提案(当初計画)

田島中学校との距離

新校区の通学距離
(直線・最長)

田島中学校



約560m

田島小
9,596㎡

約1.3km

約580m

生野南小
10,945㎡

約1.1km

「連携型」小中一貫校として教育活動を充実させる

地域等からのご提案

田島中学校との距離



約 0 km



田島中学校地に
D小学校を設置
17,101㎡

新校区の通学距離 (直線・最長)

約 1.0 km

(通学距離が一番短い)

もと田島小学校が
田島中学校の第2運動場

「一体型」小中一貫校として教育活動を充実させる

(仮称) 田島中学校・D小学校の教育活動イメージ

自立（自律）学習

小中一貫した家庭学習指導

市や区の施策を活用した
自立学習・個別学習支援

主体的・協働的で深い学び
(アクティブ・ラーニング)の研究と導入

情報活用能力の向上をめざ
した図書室やICT活用

集団の中で学び合う

×

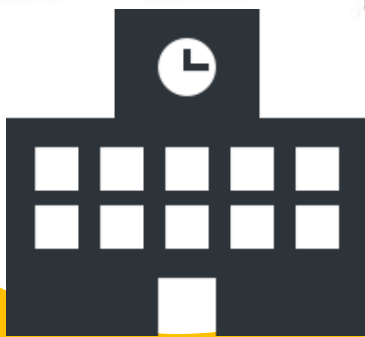
個に応じた支援

両輪で子どもを伸ばす

田島中学校



小中学校教員の
連携・協働



D小学校

生野のキャリア教育

小中一貫したプログラム
(キャリアパスポートの導入)

区や市教委との連携による
体験授業や出前講座の充実

地域産業等の特色を
活かした地域と連携した
体験活動の充実

生野版・チーム学校

区や市の施策を活用した専門
人材・外部人材の活用

チームを機能させる支援

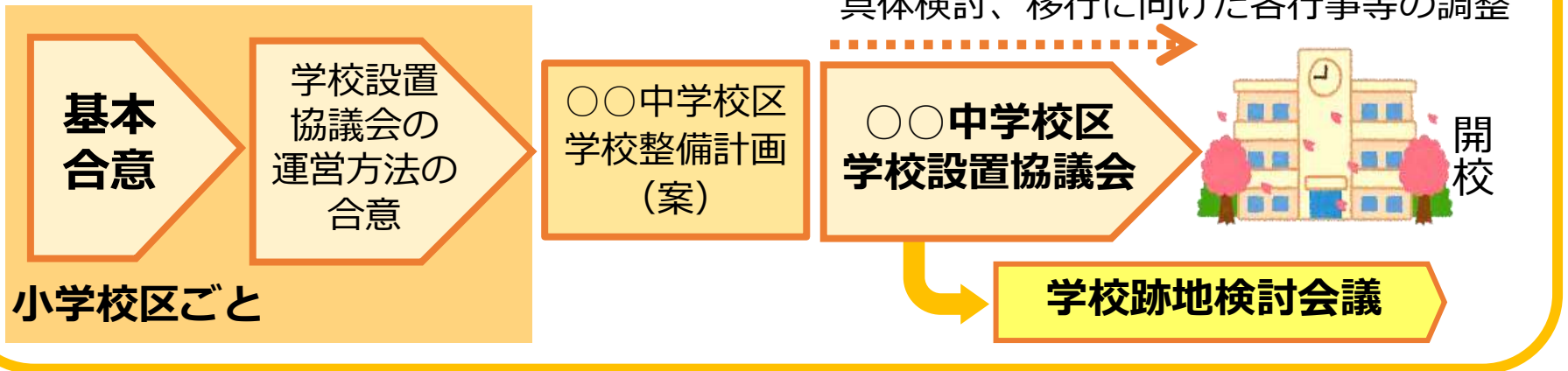


5. 今後の進め方

今までの進め方からの変更点

叩き台となる案を出した上での話し合いができなかった

今までご提案の進め方



昨年度のご意見

- くわしい案が出てこないのに、合意も話し合いもできない
- 「どんな教育内容の学校になるか」が示されていない



「生野の教育」（教育内容）を示し、中学校区ごとに具体的な案をもとに意見交換をする

今後の進め方

各中学校区ごとの「学校設置協議会準備会」で意見交換

今後の進め方①



現在の通学路の安全点検

新たな学校づくりや通学路の安全対策等の
具体検討、移行に向けた各行事等の調整

「生野の教育」
と今後の方向性
の説明会を実施

学校設置
協議会準備会

〇〇中学校区
学校整備計画
(案)

合意
形成

〇〇中学校区
学校整備計画
(素案)

中学校区ごと

学校跡地の利活用事例研究や二一ス調査

「素案」をもとに話し合う準備
会を設置して具体的に検討する

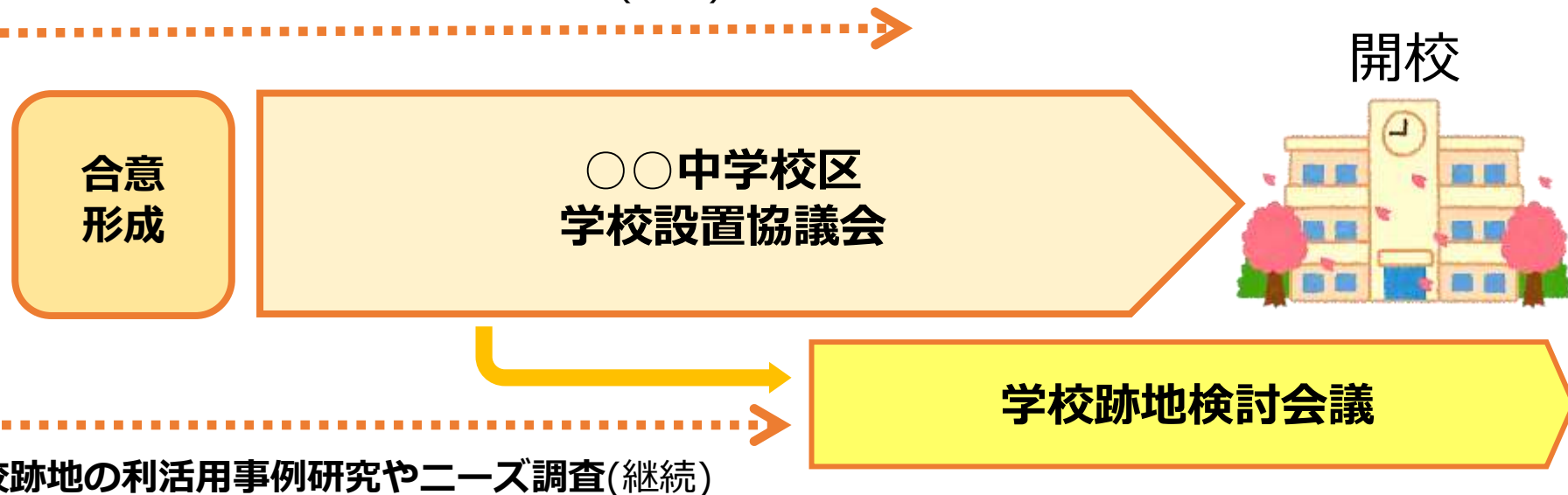


今後の進め方

合意後に「学校設置協議会」で具体事項の協議

今後の進め方②

新たな学校づくりや通学路の安全対策等の
具体検討、移行に向けた各行事等の調整(継続)



「学校設置協議会準備会」の進め方

位置づけ

大阪市が作成する学校整備計画(素案)をもとに意見交換を行い、具体的な学校整備計画(案)を策定するための会議

メンバー

PTA、地域まちづくり協議会からの推薦者
教育委員会事務局、学校長、区役所の担当 など

テーマ

校地、開校時期、通学路の安全対策、
跡地活用、学校設置協議会のあり方など



学校整備計画（案）を 策定したら次のステップへ

学校整備計画(案)の地元説明会を開催、
合意を得た上で学校設置協議会を立ち上げる

準備会で話し合うテーマ（１）通学路

通学路の安全対策はどのようなのか？

考え得る解決策を提示し、実現可能性を準備会のメンバーで話し合います。



路側帯のカラー化（八尾市）
⇒必要な箇所は先行して実施

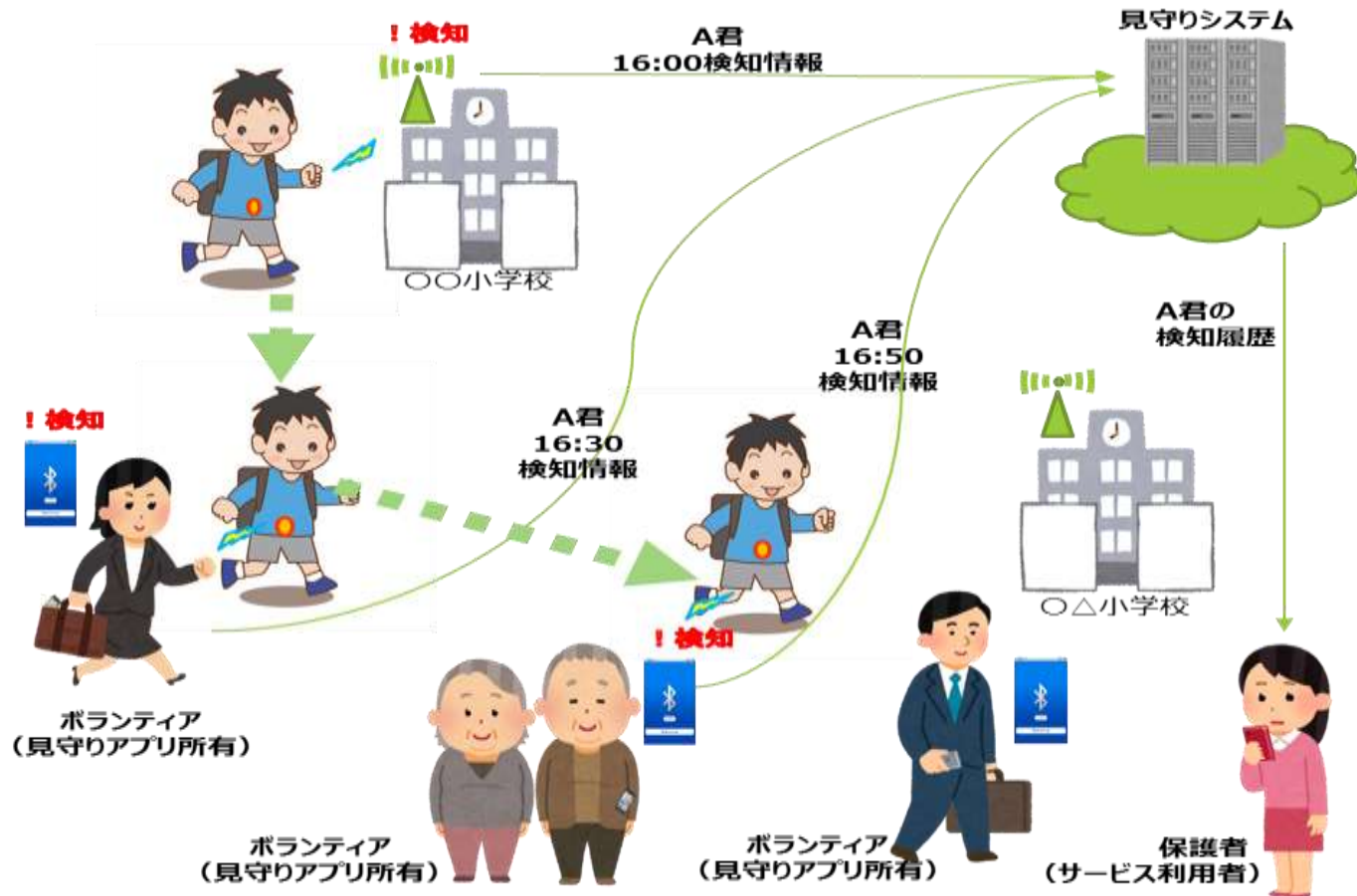


スクールガードリーダーの配置
（泉大津市）

準備会で話し合うテーマ（２）校区の広がり

校区の広がりへの安全対策はどうするのか？

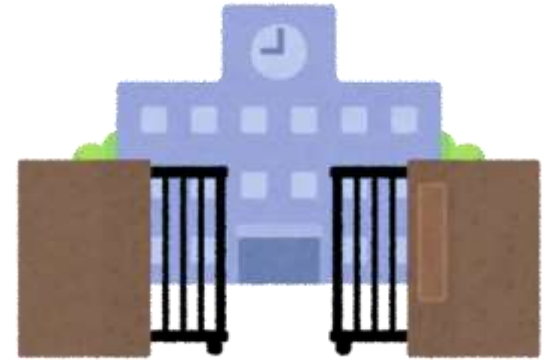
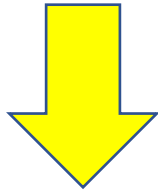
考え得る解決策を提示し、実現可能性を準備会のメンバーで話し合います。



ネットを活用した見守りシステム

準備会で話し合うテーマ（3）学校跡地活用

学校の跡地はどうするのか？



廃校後の学校施設の保全管理は行政が行います。

日常的な活用方法については**次のようなパターンが考えられますが**

準備会→協議会→学校跡地検討会と議論を引き継ぎながら検討します

学校跡地の活用 パターン① 地域による自主管理

◆管理主体：地域まちづくり協議会

◆活用方法

災害時は避難所

・地域まちづくり協議会の活動拠点

地域交流スペース等

貸会議室、貸運動場、貸体育館

・その他、区役所が管理するスペース

(防災備蓄、子育て支援スペース等)



【地域のメリット】

これまでの利用を継続できる

【地域のデメリット】

- ・施設の日常管理が必要
(人的・金銭的負担が生じる)

※金銭的負担は貸会議室などの
賃料収入で賄う努力が必要

学校跡地の活用 パターン② NPO法人による管理

◆管理主体：NPO法人

◆活用方法

災害時は避難所

・ NPO法人の活動拠点

地域交流スペース等
貸会議室、貸運動場、貸体育館



・ その他、区役所が管理するスペース

(防災備蓄、子育て支援スペース等)

【地域のメリット】

- ・ 施設の日常管理はNPOが行う
- ・ 貸出時に地域優先利用を条件づけることにより、これまでと同等の利用が可能

【地域のデメリット】

- ・ 地域で利用する際の利用料金が発生する

学校跡地の活用 パターン③ 民間企業による管理

◆管理主体：民間企業など（有償で貸付）

◆活用方法

災害時は避難所

・民間企業・法人事務所

民間企業オフィス等
貸会議室、貸運動場、貸体育館

・その他、区役所が管理するスペース

（防災備蓄、子育て支援スペース等）



【地域のメリット】

- ・施設の日常管理は民間企業が行う
- ・貸出時に地域優先利用を条件づける交渉は可能

【地域のデメリット】

- ・地域で利用する際の利用料金が発生する
- ・今までと同等の利用は難しい

学校跡地の活用 パターン④ 複合型の管理

校舎・運動場などの区画を分割して貸し出し

◆管理主体：民間企業（有償）／地域まちづくり協議会／NPOなど

◆活用方法

災害時は避難所

・民間企業・NPO法人スペース

オフィス、工房、貸会議室、宿泊施設など

・地域まちづくり協議会の活動拠点

・その他、区役所が管理するスペース

（防災備蓄、子育て支援スペース等）

【地域のメリット】

- ・施設の日常管理が必要だが、最小限の範囲で済む



【地域のデメリット】

- ・自主管理スペースの日常管理、
自主管理スペース以外の利用
料金が発生する
- ・今までと同等の利用は難しい

その他の「学校設置協議会準備会」の議題

- 再編前の小小交流、小中交流
- 教育三事業のあり方
 - ・ はぐくみネット
 - ・ 生涯学習ルーム
 - ・ 学校体育施設開放事業
- PTAの連携と新体制
- 各小学校区の地域活動の連携 など

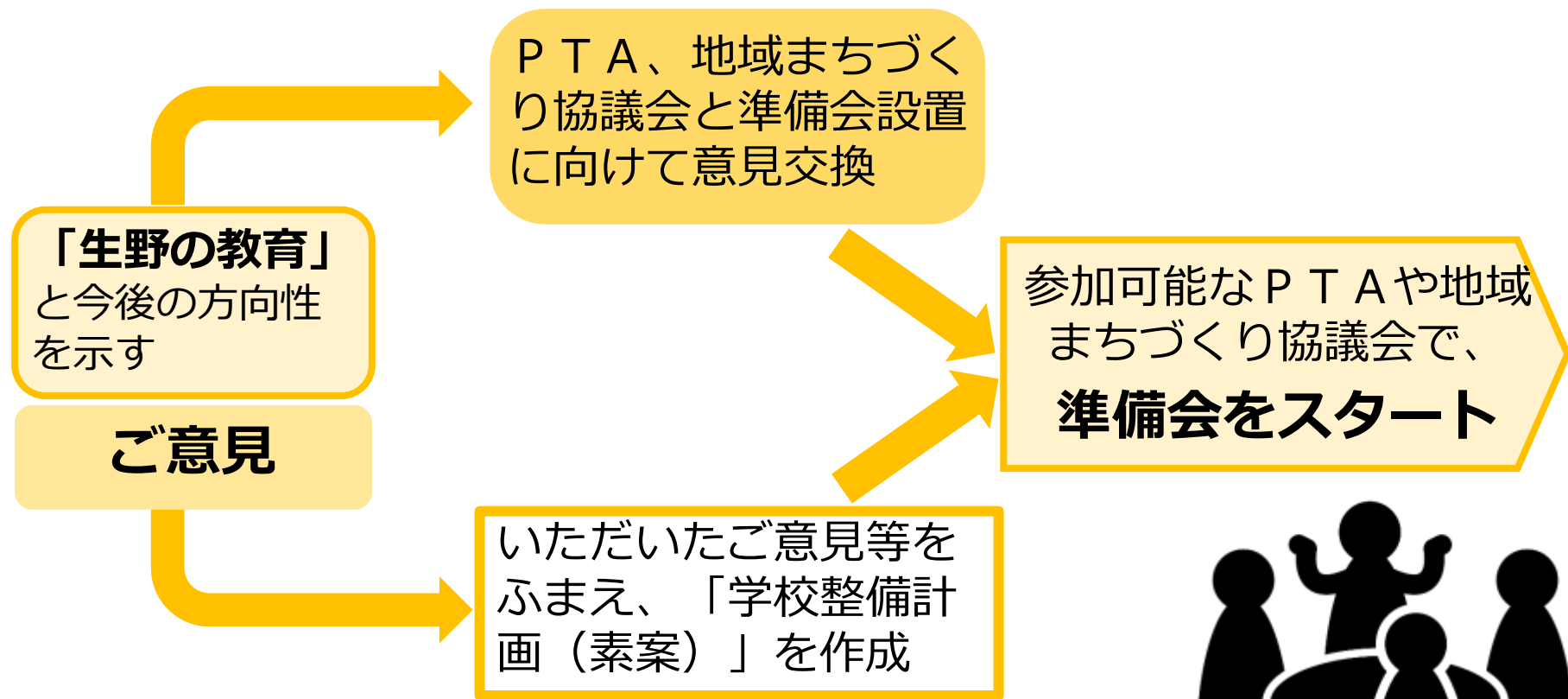


準備会にはより詳細な案や事例を出し、話し合いの上で実現可能な計画を検討します

準備会設置までの流れ

各中学校区ごとの「学校設置協議会準備会」をスタート

今後の流れ



再編に必要な期間 (仮称)D小学校

区からの提案

地域等からのご提案

0年目

1年目

2年目

3年目

4年目

学校設置
協議会
準備会

学校整備
計画(案)

田島中学校区
学校設置協議会

開
校



合意
形成

校舎建設工事等

交流事業

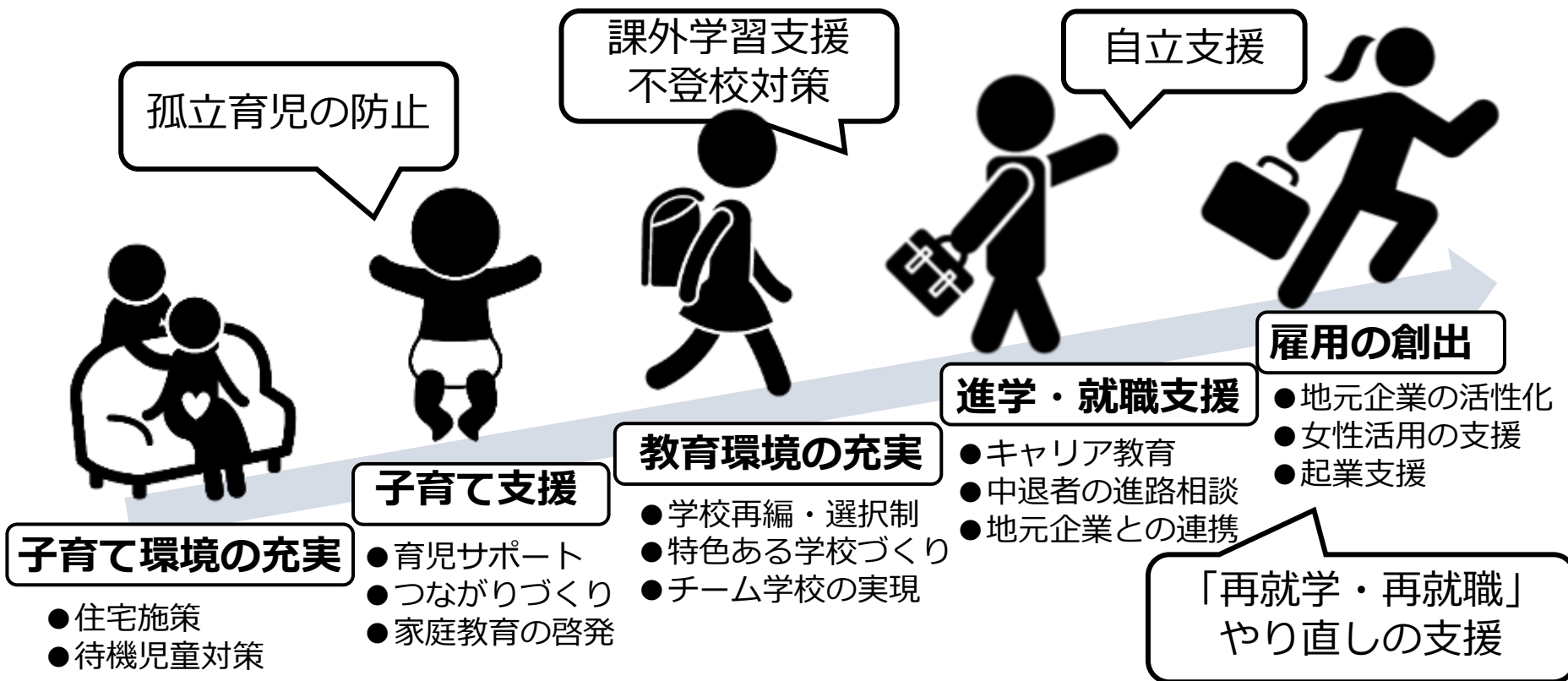


6.まとめ

～「未来志向」のまちづくり～

生野区がめざす子育て・教育・自立支援

「ひとりも取りこぼさない」を合言葉に！



「こども」というバトンを確実に未来へつなぐために
家庭・地域・学校・関連団体・事業者と連携する



生野区長としての課題意識

- 高齢世帯率 大阪市 2 位
- 未就学児の数 大阪市 9 位
なのに…… 小 1 の数が減少
- 空き家率 大阪市 3 位
- 外国人率 大阪市 1 位
- ものづくり企業数 大阪市 1 位

日本の抱える
課題と可能性が
詰まってる！



「未来志向のまちづくり」をしよう！

「バックキャスティング」で考える

= あるべき未来の姿から、今やるべきことを逆算する

①子育て世代が定着する生野区

②高齢者が安心して暮らせる生野区

③世界につながる生野区



……「今」何をすべき？

少子高齢化の中で「持続可能なまち」をめざす

多世代交流

多文化交流

「つながり」のあるまち



安心・安全なまちづくり

空き家対策による活性化

職住近接を実現するまち
= 地元産業の活性化

子育て支援の充実

教育環境の充実



「生野で子育てしたい」世代を呼び込む

最後に……

今、それぞれの学校が
目の前の子どもたちのために
日々奮闘しています。

実際に再編をするとなっても、
時間はかかります。

「今、目の前の子どもたち」
そして
「未来の生野の子どもたち」

どちらもしっかり見つめながら
学校を支援していきます。



……ご清聴ありがとうございました。